

出席：小佐野・山中・小西・三角・松村・高橋・神野（全国理事：藤村）

#### 1. 2005年度各地区例会の開催と予定

第1回例会（四国地区）が12月2日（金）に香川大学で開催された。特別講演に京都大学院の木田秀次先生を迎え、研究発表題数は20題であった。

第2回例会（中国地区）例会は、広島県立総合体育館小会議室で開催された。特別講演に気象研究所の行本誠史氏を迎え、研究発表題数は20題であった。

研究発表題数が増えており、好ましい傾向であるとの講評があった。

第3回例会（近畿地区）例会は気象学会関西支部と海洋気象学会の共催で、2006年2月21日（火）に神戸大学海事学部で開催される見込みである。特別講演に気象研究所の中澤哲夫氏を迎え、研究発表題数は14題の予定である。

#### 2. メールアドレスの集約とメーリングリスト、関西支部ニュース

2006年3月にかけて集中的にメールアドレスを集約する。

11月20日に神戸で行われた気象学会本部理事会では、各支部の広報誌電子媒体化における各会員メールアドレス把握のための支援と共有化を図られるよう検討された。

関西支部ニュースは2006年3月ころ発行分で予定通り個人配布としては最終号とする。3月ころ発行関西支部ニュースではメールアドレス登録を再度強く要請するとともに、その経緯を掲載する。

2006年5月ころ発行分からは、各会員への報知メールとHP上による関西支部ニュース体制へ移行する。

#### 3. 調査研究奨励金と研究グループ助成金の授与について

今年度は、調査研究奨励金と研究グループ助成金4月締め切りで募集は行ったが、リストアップできなかった。最近2年間は授与できていない状況である。今後は、調査研究を盛んにするべく活用努める。

一方で、関西支部から本部奨励金として関西支部予報士会「楽しいお天気教室」担当グループを今年度推薦受賞対象とさせた経緯がある。

#### 4. 気象学会2005年度秋季大会の総括案と決算案

総括案と決算案を検討した。

総括として、2005年度秋季大会は大成功であった。有料参加数は総計722名（招待者・賛助企業・委員会及びシンポジウムのみ出席者を除く）であり、大会での目立った混乱も無かった。大会期間は好天が続いたため順調に大会運営がなされたこと、大会初日に会場行きバスが混雑したこと、懸念された休日昼食は生協の努力によって回避されたこと等が報告された。

当初、大学法人化による会場費増の見込みではあったが、交渉によつての会場経費低額化となり、収支は黒字となった。黒字分で賛助金を除いた50万円程度を本部へ返納を検討した。

旧帝大系を除く地方大学で気象学会を開催する意義は大きい。おそらく神戸大学開催は初めてのケースであろう。大学の宣伝にもなり、また学会理事長からの依頼などにより大学側での便宜が図られるようである。

第8回常任理事会後に実行委員会が開催され、総括と決算をおこなう。

#### 5. その他

2005年度秋季大会シンポジウム誌掲載の気象研究所三上氏が、「天気」への投稿をカラーページで行いたい意向である。経費負担が問題になったが、これは「天気」と三上氏の間の問題であると結論した。

異動による会員住所（所属）変更に伴う、手続き方法の問い合わせがあった。従来は所属機関でまとめて手続きしていた経緯もあったが、基本的に本人が手続きを行うべきであったとした。